

スタートカリキュラムをデザインしよう

- (1) 幼児の育ちや学びを理解する
 - ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえる
 - ・幼児の育ちや学びの姿を生かす
- (2) 期待する児童の姿を共有する
 - ・安心して自分を発揮できる子ども
 - ・みんなと楽しみながら関わり、好奇心をもつ子ども
 - ・思いをふくらませ、考えを広げ、学びに夢中になる子ども実施期間を検討する 入学から4週間程度
- (3) 恩田小学校のスタートカリキュラムをデザインする
 - ① 単元の構成と配列 単元配列表の作成
 - ② 週の計画と時間配分 週案の作成
 - ・あそびタイム…友達と誘い合って自由に遊べる時間
 - ・なかよしタイム…安心をつくる時間
 - ・わくわくタイム…生活科を中心とした学習活動
 - ・ぐんぐんタイム…教科等を中心とした学習活動
- (4) 育ちと学びをつなぐために大切にしたいこと
 - ① これまでの子どもたちの育ちと学びを大切にする
 - ・園では、どうだった？
 - ② 学級は、子どもと一緒につukっていく
 - ・1組では、2組では、小学校ではどうする？
例：朝のしたく ヘルメット・水筒の置き場所
 - ③ 自分で考える
 - ・どうしたらいいと思う？どうしたいの？
 - ④ 疑問を共有する
 - ・いいはてなだね。伝え合おう！
 - ⑤ 一人ひとりに応じた支援をする
 - ・困った子ではなく、困っている子ととらえる
 - ⑥ 子どもたちの生活リズムや思考の流れに合った弾力的な時間割を設定する
 - ・登校後、友達と誘い合って自由に遊べる「あそびタイム」を設定する
 - ・朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや友達と仲良く交流する活動を取り入れる
 - ・10分から15分程度の短い時間で時間割を構成したり、子どもたちの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとし

た時間の中で進めていけるよう 2 時間続きで設定したりする ⇒ 国語科・算数科は、より小刻みにし、ショートで集中した内容を確実に学べるよう意図的に配列

- ・子どもたちの興味・関心のあるところから導入し、他教科等の活動へつなげる

⑦ 話したい聞きたい雰囲気をつくる

- ・笑顔、頷き、視線を合わせる、肯定的な言葉かけ、ありがとう、受容的な応答、興味・関心を大切にする、
- ・話したくなる聞きたくなる話題・教材・教具・活動を工夫する マイク・指差し棒など

⑧ 全校で 1 年生の育ちを支援する

- ・校長、教職員が入学予定の年長児がいる園に訪問し、子どもの様子を見せていただき、支援を引き継ぐ（好きなこと、得意なことをきく）
- ・スタートカリキュラム委員会で、昨年度の成果と課題をあげる⇒カリキュラム・マネジメント
- ・4月4日に全職員でのスタートカリキュラム研修会を行い、1年生の子どもの育ち、かかわり方を共有する
- ・5月1日の朝会で、校長が在校生に向けて1年生の子どもたちの姿を称賛する
- ・補助に入るスタカリチームの先生に支援について説明する
- ・4月は4校時終了とし、毎日の授業後の振り返りで児童の実態に合わせたカリキュラムに改善する⇒カリキュラム・マネジメント メンバー…担任、校長、スタカリ委員会メンバーなど

⑨ 個に応じた環境の工夫

- ・音声言語だけでなく、視覚に訴える絵や写真を活用する
- ・クールダウンできるコーナーなどを設ける

⑩ スタートカリキュラムの意義を園や保護者に伝える

- ・本校教職員と近隣園の先生との定期的な交流会を開く
- ・本校と中学校ブロックの教職員で、夏休みに保育参観し、グループワークで「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する
- ・旧 1 年担任、校長が就学時健康診断や入学説明会でカリキュラムの内容について説明する
参考資料：年長児保護者に配付しているこども青少年局発行のリーフレット「安心して入学を迎えるために」
- ・1 年担任が初回の学年だよりでカリキュラムの内容について説明する
- ・授業研究会に近隣園校にも参加していただく